

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 応急手当普及啓発活動資器材整備事業
-------------------	--------------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	2	市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまちをつくる
施策	3	地域医療の充実
小分類	2	救急医療体制の整備
主要な施策	1	救急医療体制の整備
事務事業番号	003	事務事業コード 12321003 事業開始年度 平成 1 8 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	応急手当普及啓発活動資器材整備事業
------	------	------------	-------------------

部 名	消防署	グループ名	警備 G
-----	-----	-------	------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #ffffcc;">（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> 救急医療体制の整備を行う。
手段（事業の内容・活動）	<p style="background-color: #ffffcc;">（目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください）</p> A E D（自動体外式除細動器）トレーナーを整備、心肺蘇生訓練人形を更新し救急講習会等、充実した訓練を行い A E D（自動体外式除細動器）の使用方法を含む心肺蘇生法の知識・技術の普及を図る。 普通救命講習（3時間）心肺蘇生法（成人一人法） （A E Dの使用方法、異物除去法、止血法） 普通救命講習（4時間）心肺蘇生法（成人一人法） （A E Dの使用方法、異物除去法、止血法、心肺蘇生法に関する知識・実技の評価） 上級救命講習（8時間）心肺蘇生法（成人、小児、乳児、新生児一人法） （A E Dの使用方法、異物除去法、止血法、心肺蘇生法に関する知識・実技の評価、傷病者管理、外傷手当要領、搬送法）
成果	<p style="background-color: #ffffcc;">（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> 救命講習会を通して A E D（自動体外指揮除細動器）の使用方法を含む正しい知識と技術（心肺蘇生法）を普及し一人でも多くの市民がバイスタンダー（傷病者の近くに居合わせた人）として必要な処置（救命処置等）を行い救命率の向上を図る。 米国における救命率の向上（市民成人の 2 0 % の住民が応急手当を知っていれば救命率の向上が期待できること）を踏まえ、当市も市民（H23.4現在 中学生以上12歳～64歳の人口）の 20%、6,500人に対する応急手当受講者を目指し事業を進めている。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffffcc;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p> 登別市応急手当普及啓発活動実施要綱

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	A E D（自動体外指揮除細動器） トレーナーの整備台数	台	目標値					1
			実績値		/	/	/	/
	心肺蘇生訓練人形	体	目標値			1	1	1
			実績値		/	/	/	/

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円			189	195	285	669
合 計				0	0	189	195	285	669
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	0	0			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		0	0			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 市民の生命、身体を保護するうえで応急救護の普及指導充実強化を図ることは市町村の責務であり事業推進は消防の使命でもある。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 多くの市民にAEDの使用方法を含む心肺蘇生の重要性が理解され、講習会は年々増加の傾向にある。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？向上させることができない理由は何ですか？ 市ホームページ、広報のぼりべつ、新聞紙上等を利用し、より多くの市民に救命講習会の開催PRや救命講習会の受講機会を増やす。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？削減できない理由は何ですか？ 市民を救命するための講習会に必要な教材・資器材・消耗品等は不可欠ではあるが、スキルレポーターモデルをスキルガイドモデルに変更しても同等の効果は得られる。

担当グループによる評価

維 持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	市民の救命講習会は救急隊が到着するまでに行うべき処置であり、救命のためには不可欠な行為である。このため講習にかかる資器材を整備・更新を図ることは必要であり、講習機会を積極的に推進することで、救命率の向上を目指す。
------------	----------------------	--

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維 持	備考
------------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）